

CentreCOM® 9606SX/SC・9606T リリースノート

この度は、CentreCOM 9606SX/SC・CentreCOM 9606T をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。

このリリースノートは、付属のユーザーマニュアルに記載されていない内容や、ご使用の前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.5.3 pl04 (2.5.3-04)

2 重要：バージョンアップ時の注意事項

ソフトウェアバージョン **2.2.2 pl25** 以前から **2.5.3 pl04** にバージョンアップすると、最初の再起動時には「設定なし」の状態で起動します。

バージョンアップ後は、コンソールからログインし、SET CONFIG コマンドで起動時設定ファイルを指定しなおした後、本製品を再起動してください。例えば、バージョンアップ前に mynet.cfg という設定ファイルを使用していた場合は、次のようにします。

```
SET CONFIG=mynet.cfg
```

```
RESTART SWITCH
```

また、リモートからバージョンアップを行うときは、バージョンアップ後アクセス不能に陥ることを避けるため、次の手順にしたがってください。

1. バージョン **2.2.2 pl25** 以前で動作している本製品にログインします。
2. 次のコマンドを実行し、Boot configuration file: に表示されるファイル名をメモします。

```
SHOW CONFIG
```

3. 次のコマンドを実行し、現在の設定を boot.cfg に保存します。boot.cfg は、「設定なし」で起動したときに自動実行される特殊なファイルです。

```
CREATE CONFIG=boot.cfg
```

4. ログアウトします。
5. 「バージョンアップ手順書」の指示にしたがって、**2.5.3 pl04** にバージョンアップします。
6. バージョン **2.5.3 pl04** で動作している本製品にログインします。
7. 次のコマンドを実行します。xxxx には手順 2 でメモしたファイル名を指定します。

```
SET CONFIG=xxxx
```

8. 手順 3 で作成した boot.cfg を削除します。

```
DELETE FILE=boot.cfg
```

9. 以上です。

3 本バージョンで追加された機能

ソフトウェアバージョン **2.2.2 pl25** から **2.5.3 pl04** へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。各機能の詳細については、「CentreCOM 9600 シリーズ コマンドリファレンス 2.5」(Rev.A) をご覧ください。

3.1 システム管理コマンドの追加

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」**

システム管理コマンドとして、RESET CPU UTILISATION コマンド (SHOW CPU で表示する CPU 利用統計のクリア) と、SHOW SYSTEM SERIALNUMBER コマンド (シリアル番号の表示) が追加されました。

3.2 NVS 上のシステムファイル保護

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」**

NVS 上のシステムファイルを保護するため、毎起動時、フラッシュメモリー上にコピーを自動作成するようになりました。コピー処理は自動で行われるため、特に意識する必要はありません。保護対象のファイルは、prefer.ins、config.ins、enabled.sec です。

3.3 SNMPv2c

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」**

ネットワーク管理プロトコル SNMP (Simple Network Management Protocol) のバージョン 2c (SNMPv2c) に対応しました。

3.4 AT-A42

 **「ユーザーマニュアル」 6-11 ~ 6-15 ページ**

拡張モジュール AT-A42 (GBIC スロット× 1) に対応しました。AT-A42 で使用可能な GBIC モジュールは、AT-G8SX、AT-G8LX、AT-G9ZX です。

3.5 ダイナミックポートセキュリティ

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」**

ポートセキュリティ有効時に学習した MAC アドレスをエージングの対象にするかどうかを選択できるようになりました。デフォルトでは、ポートセキュリティ有効時に学習した MAC アドレスはエージングの対象となりませんが、SET SWITCH PORT コマンドの RELEARN パラメーターに ON を指定すると、エージングされるようになります (ダイナミックポートセキュリティ)。

3.6 PPPoE

 **「コマンドリファレンス」 / 「PPP」**

FTTH、ADSL などのブロードバンド系インターネット接続サービスで広く使用されている PPPoE (PPP over Ethernet) に対応しました。

3.7 ICMP メッセージの送信・非送信設定

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「概要」**

一部の ICMP メッセージ（Network Unreachable、Host Unreachable、Redirect）について、送信する・しないの設定変更が可能になりました。設定は ENABLE/DISABLE IP ICMPREPLY コマンドで行います。デフォルトは「すべて送信」です。

3.8 RIP・OSPF 経路の優先度（preference）設定

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御」**

RIP や OSPF で学習した経路の優先度（preference）を変更できるようになりました。設定は SET IP ROUTE PREFERENCE コマンドで行います。

3.9 BGP-4 (AT-FL-08)

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御（BGP-4）」**

ドメイン間経路制御プロトコル BGP-4 に対応しました。ご使用にはフィーチャーライセンス AT-FL-08 が必要です。

3.10 ARP キャッシュログ

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ARP」**

ARP キャッシュの変更（登録・削除）をログに記録する機能が追加されました。デフォルトは無効ですが、ENABLE IP ARP LOG コマンドで有効化できます。

3.11 IPv6 (AT-FL-13)

 **「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」**

次世代インターネットプロトコル IPv6（Internet Protocol Version 6）に対応しました。ご使用にはフィーチャーライセンス AT-FL-13 が必要です。

3.12 PIM-DM (AT-FL-03)

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」**

マルチキャスト経路制御プロトコル PIM-DM（Protocol Independent Multicast - Dense Mode）に対応しました。ご使用にはフィーチャーライセンス AT-FL-03 が必要です。

3.13 PIM-SM (AT-FL-03)

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」**

マルチキャスト経路制御プロトコル PIM-SM（Protocol Independent Multicast - Sparse Mode）に対応しました。ご使用にはフィーチャーライセンス AT-FL-03 が必要です。

3.14 IGMP スタティックエントリー (AT-FL-03)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」

IP マルチキャストのグループメンバーをスタティックに登録できるようになりました。本機能はライセンスなしでもご使用になれますが、弊社のサポートを受けるためにはフィーチャーライセンス AT-FL-03 が必要です。

3.15 MLD Snooping (AT-FL-13)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6 マルチキャスト」 / 「MLD Snooping」

不要な IPv6 マルチキャストパケットをレイヤー 2 でフィルタリングする MLD Snooping に対応しました。本機能有効時は、レイヤー 2 スイッチング動作において、メンバーの存在するポートにだけ IPv6 のマルチキャストパケットを転送します。本機能はデフォルトで有効になっており、ご使用になれますが、弊社のサポートを受けるためには IPv6 のフィーチャーライセンス AT-FL-13 が必要です。

3.16 ファイアウォール (AT-FL-02) : TCP/SYN 代理応答の有効・無効設定

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」 / 「ファイアウォールポリシー」

TCP/SYN パケットに対するファイアウォールの代理応答を無効化できるようになりました (DISABLE FIREWALL POLICY TCPSETUPPROXY コマンド)。ご使用にはフィーチャーライセンス AT-FL-02 が必要です。

3.17 ファイアウォール (AT-FL-02) : フラグメントパケットの透過・不透過設定

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」 / 「ファイアウォールポリシー」

UDP、ICMP、その他（ただし TCP を除く）の各プロトコルについて、フラグメントパケットの透過・不透過を設定できるようになりました。デフォルトでは、再構成後の IP データサイズ (L4 パケットサイズ) が 1780 Byte を超えるか、フラグメントの数が 8 個を超えるパケットはファイアウォールで破棄されますが、フラグメント透過に設定することで、再構成後サイズの制限をなくすることができます。また、最大フラグメント数も 8～50 個の範囲で設定できます (透過設定時のデフォルトは 20 個)。ご使用にはフィーチャーライセンス AT-FL-02 が必要です。

3.18 ファイアウォール (AT-FL-02) : ルール NAT

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」 / 「フィルタールール」

ファイアウォールの NAT 機能として、従来のインターフェース NAT に加え、ルール NAT が追加されました。ルール NAT は、ACTION=NAT のフィルタールールとして設定する NAT 機能です。ご使用にはフィーチャーライセンス AT-FL-02 が必要です。

4 本バージョンで仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン **2.2.2 pl25** から **2.5.3 pl04** へのバージョンアップにおいて、以下の仕様変更が行われました。各機能の詳細については、「CentreCOM 9600 シリーズ コマンドリファレンス 2.5」(Rev.A) をご覧ください。

4.1 ファイル名の文字数拡張

 参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」

ファイルのベース名（拡張子より前の部分）に使用できる文字数が 8 文字から 16 文字に拡張されました。

4.2 コマンドラインの入力文字数拡張

 参照 「ユーザーマニュアル」 2-19 ページ

 参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「コマンドプロセッサ」

1 行で入力できるコマンドの最大文字数が 121 文字から 1000 文字に拡張されました。

4.3 QoS 設定コマンドの変更

 参照 「ユーザーマニュアル」 3-31 ～ 3-32 ページ

 参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「QoS」

QoS 機能において、ユーザープライオリティーと送信キューのマッピングを変更するためのコマンドが、SET SWITCH QOS から SET QOS HWPRIORITY に変更されました。また、マッピングを確認するコマンドも、SHOW SWITCH QOS から SHOW QOS HWPRIORITY に変更されました。従来のコマンドも使用できますが、CREATE CONFIG コマンドを実行すると、新コマンドに変換されて保存されます。

4.4 プロキシ ARP のデフォルト設定変更

 参照 「ユーザーマニュアル」 5-10 ページ

 参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ARP」

VLAN 上に作成した IP インターフェースのプロキシ ARP 設定がデフォルト ON から OFF に変更されました。プロキシ ARP を使用する場合は、ADD/SET IP INTERFACE コマンドの PROXYARP パラメーターに ON を指定してください。

4.5 IGMP Snooping

 参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP Snooping」

IGMP Snooping が IGMP モジュールから独立し、完全なレイヤー 2 機能になりました。これにより、IP や IGMP を有効化しなくても IGMP Snooping を使用できます。IGMP Snooping はデフォルト有効です。

5 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.2.2 pl25 から 2.5.3 pl04 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 5.1 IF THEN ELSE 文で使用する文字列比較演算子 EQ と NE が、文字列の先頭 2 文字しか比較していませんでしたが、これを修正しました。

- 5.2 MIB-II のipNetToMediaPhysAddressに正しい値がセットされていませんでしたが、これを修正しました。
- 5.3 ブリッジ MIB のdot1dStpPriority と dot1dBaseType に正しい値がセットされていませんでしたが、これを修正しました。
- 5.4 ダイナミックルーティングプロトコル使用時、MIB-II のipRouteEntry に経路情報が正しくセットされていませんでしたが、これを修正しました。
- 5.5 SNMP 有効時、コミュニティ名を「public」に設定していると、PROTOS TEST の一部試験項目でクラッシュが発生していましたが、これを修正しました。
- 5.6 IGMP を有効 (ENABLE IP IGMP) から無効 (DISABLE IP IGMP) に設定しても、Report メッセージがフラッディングされませんでしたが、これを修正しました。
- 5.7 IGMP 使用時、NTP などによってシステム時刻が変更されると、IGMP グループエントリーの Refresh time が不正な値になっていましたが、これを修正しました。
- 5.8 ファイアウォールのスタティック NAT とポリシーフィルターを併用した場合、PRIVATE 側のスタティック NAT 対象ホストから PUBLIC 側のディレクティッドブロードキャストアドレス宛てのパケットにポリシーフィルターが適用されず、結果的にスタティック NAT ルールによる変換が行われませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 5.9 DHCP クライアントに割り当てていた IP アドレスを解放した場合、SHOW DHCP RANGE コマンドの表示項目 Free Address (未使用の IP アドレス一覧) に、該当の IP アドレスが重複して表示される場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 5.10 既存の DHCP ポリシー (ベースポリシー) を継承する子ポリシー (サブポリシー) を作成している場合に、ベースポリシーを削除できていましたが、これを修正しました。

6 本バージョンでの制限事項

ソフトウェアバージョン **2.5.3 pl04** には、以下の制限事項があります。

6.1 HTTP ダウンロードについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「アップロード・ダウンロード」

SET LOADER コマンドの HTTPPROXY パラメーターが機能しません。HTTP プロキシ経由でファイルをダウンロードする場合は、LOAD コマンドの HTTPPROXY パラメーターでプロキシサーバーを指定してください。

6.2 ログについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

DESTINATION=NVS のログ出力先定義において、MESSAGES パラメーター (保存するメッセージの最大数) に 92 以上の値を指定した場合、NVS には指定値に満たない数しかメッセージが保存されません。

6.3 SNMP MIB オブジェクトについて

 **「ユーザーマニュアル」 5-11 ～ 5-13 ページ**

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」**

SNMP の MIB オブジェクトについて、以下のような制限があります。

- MIB-II の ifInDiscards、ifInErrors、ifInUnknownProtos、ifOutDiscards、ifOutErrors、イーサネット MIB の dot3StatsFrameTooLongs が正しくカウントアップされません。
- ブロードキャスト受信時に、VLAN インターフェースの MIB-II の ifInDiscards がカウントされます。
- ブリッジ MIB の dot1dStpPriority、dot1dStpBridgeMaxAge、dot1dStpBridgeHelloTime、dot1dStpBridgeForwardDelay に値を設定できません。

6.4 NTP について

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」**

本製品のシステムクロックと NTP サーバーのクロックの間に 34 年 9 日 10 時間以上の差がある場合、本製品の NTP クライアントは NTP サーバーに同期できません。

6.5 SHOW SWITCH PORT コマンドの表示について (9606T のみ)

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」**

9606T では、リンクアップしているスイッチポートの通信速度を変更した場合、該当ポートをいったんリンクダウン・リンクアップさせないと、SHOW SWITCH PORT コマンドの表示項目 Actual speed/duplex に反映されません。

6.6 フローコントロールについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」**

DISABLE SWITCH PORT FLOW コマンドでフローコントロールを無効にした後、CREATE CONFIG コマンドで設定を保存し、SET CONFIG コマンドで保存したファイルを起動時設定ファイルに保存すると、システム再起動時にエラーが表示され、フローコントロールが無効になりません。設定ファイルを EDIT コマンドで開き、「flow=jamming,pause」の部分を「flow=pause」に修正するか、再起動トリガーを使用して対処してください。

6.7 ポートランキングについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」**

トランクポートからパケットを送出しているとき、LINK/ACT (L/A) LED が点滅しません。

6.8 ポートミラーリングについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」**

- 本製品（CPU）が送信するパケットは、ソースポートがタグ付き・タグなしのどちらであっても、タグ付きでミラーポートから出力されます。
- システム再起動後にソースポートをタグ付きに設定した場合、同ポートでタグなしパケットを受信すると、タグ付きでミラーポートから出力されます。このような場合は、設定を保存した後、システムを再起動してください。

6.9 ポートセキュリティについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」**

- ポートセキュリティがオンのポートで受信したパケットの VLAN ID が、ポートの所属 VLAN と一致しない場合でも、アドレスを FDB に登録します。
- ポートセキュリティがオンのポートが、ある VLAN にタグ付きポートとして所属している場合、その VLAN から同ポートを削除すると、同ポートが所属する他の VLAN の FDB スタティックエントリーも削除されます。
- ポートセキュリティがオンのポートにおいて、送信元 MAC アドレスがブロードキャストかマルチキャストのパケットを受信すると、このアドレスを FDB に登録します。ただし、通信には影響ありません。

6.10 スパニングツリープロトコルについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパニングツリープロトコル」**

スパニングツリープロトコル有効時、フォワーディング状態のポートに対して DISABLE SWITCH PORT コマンドを実行し、通信復旧後に再度 ENABLE SWITCH PORT コマンドを実行すると、通信が復旧しなくなります。フォワーディング状態のポートに対して DISABLE SWITCH PORT コマンドを実行しないでください。

6.11 ハードウェア IP フィルターについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェア IP フィルター」**

- SET SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドの実行時、変更したエントリーと既存のエントリーの間に矛盾が生じた場合、変更したエントリーが無条件に削除されます。SET SWITCH L3FILTER ENTRY コマンド実行時に「Error (3087288): Switch Operation failed.」と表示されたときは、SHOW SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドで変更したエントリーが削除されていないか確認し、削除されていた場合は ADD SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドで再度追加してください。
- IPX パケット（フレームタイプ 802.3raw）にマッチさせるため、DSAP / SSAP = 0xFFFF の条件を持つフィルターエントリーを作成した場合、このエントリーは IPX（フレームタイプ Ethernet 2）の IPX パケットにもマッチしてしまいます。

- コマンドラインから TYPE パラメーター (L3 プロトコルタイプ) を条件とするフィルターエントリーを作成した場合 (例: ADD SWITCH L3FILTER=1 ENTRY TYPE=0806 ACTION=SEND COS)、まれに正しく動作しないことがあります。このような場合は、設定を保存した後、システムを再起動してください。

6.12 PPPoE の認証について

 **「コマンドリファレンス」 / 「PPP」 / 「概要」**

PPPoE クライアントの設定において PPP パスワードを間違えた場合、システム再起動後、永久に再試行を繰り返してしまいます。

6.13 ICMP メッセージについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」**

ICMP Host Unreachable メッセージの送信に時間がかかることがあります。

6.14 TRACE コマンドについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「概要」**

- TRACE コマンドの実行完了前に次の TRACE を実行すると、本製品がリブートすることがあります。最初の TRACE が完了するのを待つか、STOP TRACE コマンドで最初の TRACE を中断してから次の TRACE を実行してください。
- TRACE コマンドには宛先 IP アドレスを 1 つだけ指定してください。複数指定してもエラーにはなりませんが、正しく動作しませんのでご注意ください。

6.15 IP 統計情報の表示について

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」**

- ファイアウォール (AT-FL-02) 有効時、SHOW IP INTERFACE COUNTER コマンドで表示される受信パケットカウンタ (ifInPkts, ifInBcastPkts, ifInUcastPkts, ifInDiscards) に、実際の受信パケット数の 2 倍の値が表示されます。
- ICMP アドレスマスク応答メッセージ受信時に、inAddrMaskReps カウンタがカウントされません。

6.16 ディレクティブブロードキャストアドレス宛のパケットについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」**

- 異なるネットワークからディレクティブブロードキャストパケットを受信した場合、本製品が返す Reply パケットの送信元 IP アドレスに、受信インターフェースの IP アドレスがセットされず、送信元にもっとも近いインターフェース (パケットを実際に送り出すインターフェース) の IP アドレスがセットされます。

- IP インターフェースに対して、クラス標準でないネットマスクを設定している場合、標準マスク時のディレクティッドブロードキャストアドレス宛パケットを正しくルーティングできません。

6.17 スタティック経路の設定保存について

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御」**

DHCP クライアントとして設定した IP インターフェースを、ADD IP ROUTE コマンドの INTERFACE パラメーターに指定した場合、この経路設定は CREATE CONFIG コマンドで保存できません。

6.18 RIP による経路情報の通知について

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (RIP)」**

ADD IP ROUTE コマンドで設定されたネクストホップルーターが属するインターフェースから、スタティックまたは OSPF 経路情報が RIP で正しく通知されません。

6.19 DNS サーバーアドレスの動的取得について

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」**

ADD IP DNS コマンドの INTERFACE パラメーターで、DNS サーバーアドレスを DHCP で動的に取得するよう設定していないにもかかわらず、DNS サーバーアドレスが動的に取得されます。

6.20 DNS キャッシュについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」**

DNS キャッシュ機能のキャッシュサイズを 1 に設定した場合、最初のキャッシュエントリーがエージングも上書きもされずに残り続けます。キャッシュサイズを 1 に設定しないでください。

6.21 ソフトウェア IP フィルターについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ソフトウェア IP フィルター」**

- ADD/SET IP FILTER コマンドで OPTIONS パラメーターを指定した場合、フィルターが正しく動作しません。
- 1 つの IP フィルターに対して複数のエントリーを作成した場合、パケットが 2 つ目以降のエントリーにマッチした場合のパフォーマンスは、1 つ目のエントリーにマッチした場合よりも低くなります。

6.22 DHCP リレーエージェントについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「DHCP/BOOTP リレー」**

DHCP メッセージの hops フィールドの値が、SET BOOTP MAXHOPS コマンドで指定した値（最大転送回数）より大きい場合でも、同メッセージが破棄されずに転送されます。

6.23 マルチホーミングと UDP ブロードキャストヘルパーの併用について

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「UDP ブロードキャストヘルパー」**

マルチホーミングした IP インターフェース上で UDP ブロードキャストヘルパーを使用する場合、後から設定した論理インターフェースがナチュラルサブネットでないと（ネットマスクがクラス標準マスクでないと）、この論理インターフェースでパケットを受信したときに UDP ブロードキャストヘルパーが機能しません。UDP ブロードキャストヘルパーを使用する論理インターフェースは一番最初に設定するようにしてください。

6.24 ICMPv6 メッセージについて (AT-FL-13)

 **「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」**

ICMPv6 Address Unreachable または No Route To Destination メッセージの送信に時間がかかることがあります。

6.25 IPv6 インターフェースの設定について (AT-FL-13)

 **「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「IPv6 インターフェース」**

- IPv6 インターフェースの設定時に「DECREMENT=YES」を指定した場合、最終有効時間（Valid lifetime）が 0 になった時点で、SHOW CONFIG DYNAMIC=IPV6 コマンドの表示から同インターフェースの設定内容が消えます。
- 6to4 プレフィックスを持つアドレス（2002: で始まる 6to4 用のアドレス）を、実インターフェースに割り当てることができません。

6.26 PIM-DM (AT-FL-03) について

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」**

- 本製品が Assert Loser のとき、Prune Limit Timer 満了後に上流ルーターからマルチキャストパケットを受信しても Prune メッセージを送信しません。そのため、Assert Winner との間で Assert メッセージのやりとりが頻繁に発生します。
- インターフェースがダウンしたことにより IP の経路表からエントリーが削除されても、PIM の経路表からはエントリーが削除されません。
- システム再起動後、Triggered_Hello_Delay 時間内に HELLO パケットを送信しないことがあります。
- Prune 状態のインターフェースが Graft しても、経路エントリーの Prune limit time が 0 にリセットされません。これは SHOW PIM コマンドの表示だけの問題であり、マルチキャストパケットの転送は正しく行われます。
- Assert Loser から Prune メッセージを受信しても Prune Ack を返しません。

6.27 PIM-SM (AT-FL-03) について

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」**

- インターフェースがダウンしたことにより IP の経路表からエントリーが削除されても、PIM の経路表からはエントリーが削除されません。
- システム再起動後、Triggered_Hello_Delay 時間内に HELLO パケットを送信しないことがあります。
- Join 中に上流ルーターの Generation ID が変更された場合、隣接関係の確立前（Hello パケットの送信前）に Join メッセージを再送してしまうため Join に失敗し、結果として、次の Join メッセージを送信するタイミングまでマルチキャストトラフィックを受信できなくなります。
- 本製品が BSR に選出されているとき、優先度が同一で、なおかつ、より大きな IP アドレスを持つ C-BSR からメッセージを受信しても、BSR の切り替えが行われません。このような場合は、設定をファイルに保存した後、システムを再起動してください。

6.28 ファイアウォール (AT-FL-02) について

 **「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」 / 「ファイアウォールポリシー」**

 **「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」 / 「フィルタールール」**

- PUBLIC 側で受信したパケットを破棄した場合、SHOW FIREWALL POLICY コマンドの COUNTER オプションで表示される Total Packets Received カウンターが2 ずつカウントされます。
- PRIVATE 側に設定した Deny ルールでパケットを破棄した場合、SHOW FIREWALL POLICY コマンドの COUNTER オプションで表示される Number Dropped Packets カウンターがカウントされません。
- PUBLIC 側でマルチキャストパケットを破棄した場合、「Dir=OUT」（本来は「Dir=IN」が正しい）で Deny イベントが記録されます。
- PUBLIC 側に PROTOCOL=ALL を指定したスタンダード NAT ルールを設定すると、ICMP_FORWARDING が無効であっても PUBLIC 側からの ICMP パケットを PRIVATE 側に転送します。
- PUBLIC 側にリバース NAT ルールを設定する場合、ADD FIREWALL POLICY RULE コマンドの GBLREMOTEIP パラメーターに複数アドレスの範囲指定が可能になっています。リバース NAT では、GBLREMOTEIP パラメーターに単一のアドレスを指定するのが正しい仕様ですので、範囲指定はしないでください。
- インターフェース NAT またはルール NAT を使用している場合、フラグメントパケットを透過するように設定しても、再構成後の IP データサイズ（L4 パケットサイズ）が 1780 Byte を超えるパケットが IPSPOOF アタックと認識され、通信ができません。

- 不正な Ack 番号を持つ TCP セグメントに対しても Ack を返します。

6.29 VRRP について

 **「コマンドリファレンス」 / 「VRRP」**

CREATE VRRP コマンドのPORTMONITORING を ON に設定した場合、VR に所属するすべてのインターフェースの PRIORITY が 0 になると、短期間に大量の VRRP パケットが送出されてしまいます。

6.30 DHCP サーバー機能について

 **「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」**

DHCP サーバー機能とローカル IP インターフェース (SET IP LOCAL コマンド) を併用した場合、DHCP offer メッセージを再送するときにローカル IP インターフェースの IP を使用せず、パケットを送出するインターフェースの IP を始点 IP アドレスとして使用します。

7 ユーザーマニュアル・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

同梱のユーザーマニュアル、および CD-ROM に収録されている「CentreCOM 9600 シリーズ コマンドリファレンス 2.5 (Rev.A)」の補足事項です。

7.1 FAULT LED について

 **「ユーザーマニュアル」 1-9, 6-5, 6-18 ページ**

本体前面 FAULT LED (赤) の点滅の表示内容に誤りがありましたので、以下のとおり訂正してお詫びいたします。

LED	色	状態	表示内容
FAULT	赤	点灯	本体、または内蔵ソフトウェアが故障しています。
		点滅	1回点滅： ファンに障害があります。 3回点滅： リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」のDC電源ケーブルが接続されていて、本体の電源ユニットに異常があります。 4回点滅： SET SYSTEM RPSMONITORコマンドでONが指定されていて、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」の電源ユニットに異常があります。 5回点滅： SET SYSTEM RPSMONITORコマンドでONが指定されていて、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」のDC電源ケーブルが接続されていません。
		消灯	システムに異常はありません。

7.2 HTTP サーバー（サポート対象外）について

本製品はデフォルトで HTTP サーバー（サポート対象外）が有効になっているため、IP 有効時は TCP のポート 80 番がオープンしています。セキュリティを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にすることをおすすめします。

7.3 送信元アドレスがマルチキャストアドレスのフレームについて

受信した Ethernet フレームの送信元アドレスがマルチキャストアドレスだった場合、このフレームは転送されずに破棄されます。

7.4 ポートランキングについて

 **「ユーザーマニュアル」 3-7 ～ 3-10 ページ**

- バージョン **2.2.2 pl18** で、トランクグループに追加されたポートの通信モードが、Full Duplex 固定から SPEED パラメーターで指定した速度のオートネゴシエーションとなりました。バージョン **2.2.2 pl18 以降** を搭載した機器とバージョン **2.2.2 pl10** を搭載した機器間ではポートランキングの接続はできませんのでご注意ください。
- バージョン **2.2.2 pl18** で、ポートランキングと VLAN 間ルーティングを併用した場合に、ルーティングされたパケットに対して負荷分散が行われるようになりました。ただし、送信ポート決定の基準になるのは「IPDEST（終点 IP アドレス）」のみで、その他のパラメーターを指定した場合も、IPDEST を指定したときと同じ動作になります。

7.5 フローコントロール（IEEE 802.3x PAUSE）について

 **「ユーザーマニュアル」 3-6 ページ**

「ユーザーマニュアル」 3-6 ページにフローコントロールについての説明がありますが、本製品のフローコントロール（IEEE 802.3x PAUSE）は、PAUSE フレームの受信のみをサポートしています。「バッファメモリーを監視し、空きが減少してくると PAUSE フレームを送出する」という動作は行いませんので、訂正してお詫びいたします。

PAUSE フレームを受信した場合は、PAUSE フレームの送信元である接続機器に対して送信を一時的に停止し、フロー制御を行います。

なお、9606SX/SC は Half Duplex での通信はサポートしておりません。

7.6 フォワーディングデータベースについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「フォワーディングデータベース」**

1 回目のエージアウトでは、すべてのダイナミックエントリーがフォワーディングデータベースから削除されない場合があります。ただし、2 回目以降のエージアウトではすべてのダイナミックエントリーが削除されます。

7.7 ハードウェア IP フィルターについて

 **「ユーザーマニュアル」 4-36 ページ**

「ユーザーマニュアル」 4-36 ページに、注意事項として「ハードウェア IP フィルターは、本体宛のパケット、および送信元 MAC アドレス未学習のユニキャストパケットに対しては適用さ

れません。」とありますが、本製品にこのような制限はありませんので、訂正してお詫びいたします。

7.8 DVMRP (AT-FL-03) について

 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「DVMRP」

本製品の DVMRP 実装は、Internet Draft の「Appendix C」(古い DVMRP 実装との相互運用性に関する項目) には対応していません。

8 未サポート機能・コマンド

以下の機能、コマンドはサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

- 以下の機能
以下の項目は付属のユーザーマニュアルに記述がありますが、本製品ではサポート対象外となっていますので、あらかじめご了承ください。

バックプレッシャー (9606T のみ)
BOOTP サーバー

- 以下の機能別キーワードを含む全コマンド
ENABLE の後に[?] キーを押すと表示される機能別キーワードです。

ACC, APPLTALK, BRI, CLASSIFIER, ENCO, ETH, FRAMERELAY, GARP, GRE, GUI, PIM6, IPSEC, IPX, ISAKMP, ISDN, L2TP, LAPB, LAPD, LDAP, LOADBAL-
ANCER, LB, LPD, MIOX, PKI, PRI, Q931, RADIUS, RSVP, SA, SERVICE, SSH, SSL, STAR, STARTUP, STT, SYN, TPAD, TACACS, VLANRELAY, X25C, X25T, TDM, DS3, VOIP

- 以下のコマンド (パラメーター)
太字はコマンド名、細字は該当コマンドのパラメーター名です。下線が引いてあるコマンド (パラメーター) は「CentreCOM 9600 シリーズ コマンドリファレンス 2.5 (Rev.A)」に記述があります。

COPY
DUMP
START PKT
STOP PKT
SET PKT

TRACE [ADDRONLY]

PING [APPLEADDR ; IPXADDR ; OSIADDRESS] [SAPPLEADDRESS ; SIPXADDRESS ; SOSIADDRESS]
SET PING [APPLEADDR ; IPXADDR ; OSIADDRESS] [SAPPLEADDRESS ; SIPXADDRESS ; SOSIADDRESS]

SHOW SWITCH SOCK
SHOW SWITCH MEMORY
SHOW SWITCH SWTABLE
SET SWITCH SOCK
SET SWITCH PORT [MULTICASTMODE] [SPEED={10MHAUTO ; 10MFAUTO ; 100MHAUTO ; 100MFAUTO ; 1000MHAUTO ; 1000MFAUTO ; 1000MHAF}]

SET STP [MODE] [RSTPTYPE]
SET STP PORT [EDGEPORT] [PTP]

ADD/DELETE/SET IP MVR

CREATE/DESTROY IP MVR
ENABLE/DISABLE IP MVR
CREATE/DESTROY IP POOL
SHOW IP POOL
CREATE/DESTROY IP IGMP
ADD/DELETE IP IGMP
ADD/DELETE IP ROUTE FILTER [PROTOCOL={STATIC | INTERFACE}]
ADD/DELETE/SET IP FILTER PRIORITY
ADD/DELETE IP EGP
ENABLE/DISABLE IP EGP
SHOW IP EGP
ADD/DELETE IP SA
SHOW IP SA
SET IP ARP [DLC] [CIRCUIT]
SET IP RIP NEWIPADDRESS
SET IP FLOW
SHOW IP FLOW
SHOW IP CACHE
SHOW IP ROUTE [CACHE]
SHOW IP ROUTE TEMPLATE
SHOW IP ROUTE MULTICAST
ENABLE/DISABLE IP FOFILTER
ENABLE/DISABLE IP MULTICASTSWITCHING
ENABLE/DISABLE IP SRCROUTE

ADD/DELETE DVMRP [DLC]
ADD/DELETE DVMRP INTERFACE [DLC]
SET DVMRP [DLC]
SET DVMRP INTERFACE [DLC]

ADD/DELETE IPV6 FILTER [PRIORITY]
ADD/DELETE IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]
SET IPV6 FILTER [PRIORITY]
SET IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]
ENABLE/DISABLE IPV6 MLD
ENABLE/DISABLE IPV6 FLOW

CREATE FIREWALL POLICY DYNAMIC
ADD/DELETE FIREWALL POLICY DYNAMIC
ADD/DELETE FIREWALL POLICY PROXY
ADD/DELETE FIREWALL POLICY SPAMSOURCES
ADD/DELETE FIREWALL POLICY HTTPFILTER
ADD/DELETE FIREWALL POLICY RULE [LIST=RADIUS]
SET FIREWALL POLICY SMTPDOMAIN
SET FIREWALL POLICY ATTACK
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY SMTPRELAY
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY HTTPCOOKIES

CREATE QOS
ADD/DELETE QOS
SET QOS PORT
SET QOS POLICY
SET QOS TRAFFICCLASS
SET QOS FLOWGROUP
SHOW QOS POLICY
SHOW QOS TRAFFICCLASS
SHOW QOS FLOWGROUP

CREATE/DESTROY PPP [AUTHMODE] [BAPMODE] [CBMODE] [CBDELAY]
[COPY] [DEBUGMAXBYTES] [DESCRIPTION] [FRAGMENT] [FRAGOVERHEAD]
[LOGIN] [MAXLINKS] [MRU] [NULLFRAGTIMER] [NUMBER] [TYPE]
ADD/DELETE PPP [AUTHENTICATION] [CBDELAY] [CBMODE] [CBNUMBER]
[CBOperation] [COMPALGORITHM] [COMPRESSION] [CONFIGURE] [MODEM]
[NUMBER] [PREDCHECK] [RESTART] [STACHECK] [TERMINATE] [TYPE]
ADD/DELETE/SET PPP ACSERVICE
ADD/DELETE/SET PPP TEMPLATE
ENABLE/DISABLE PPP TEMPLATE
ADD/DELETE PPP MAXSESSIONS
ADD/DELETE PPP ACRADIUS
ADD/DELETE PPP VLAN
ENABLE/DISABLE PPP ACCESSCONCENTRATOR
ACTIVATE PPP RXPKT

ADD/DELETE/SET PIM INTERFACE [SRCAPABLE]
SHOW PIM [STATEREfresh]

9 コマンドリファレンスについて

最新の日本語版コマンドリファレンス「CentreCOM 9600 シリーズ コマンドリファレンス 2.5 (J613-M6873-04 Rev.A)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「J613-M6873-04 Rev.A」は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

